Jahresbericht 44

JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT
WESTJAPAN

年報 第44号

令和2年12月

西日本日独協会

FUKUOKA　JAPAN　2020

表紙の写真：10 月例会　ベルリンの壁崩壊 30 周年を記念して
高柳会員のご提供により、1989 年当時の貴重な資料が展示されました。

目　次

挨　拶

ご挨拶　岡嶋 泰一郎…… 1

寄　稿

Träumerei「ドイツ会館・福岡」　高柳 英子…… 3

ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』の旅　永元 康夫…… 5

例会と催し

〈4月例会〉　京都からドイツへ ～元禄の押絵雛の再発見～　シュヴァイツァー アントン…… 7

〈5月特別例会〉　九州大学伊都キャンパスツアー　小黒 康正…… 9

《5月特別例会感想》　宮﨑 亮…… 11

〈6月例会〉　（JR九州セコム社長 川口史氏 講演）日本の鉄道・ドイツの鉄道
— 日蘭大陸横断レールクルーズ・ユーラシア大陸横断14,000km鉄道の旅 —　宮﨑 亮…… 13

〈10月例会〉　ハンザ＆大学都市ロストック 600-800
（Hanse-und Universitätsstadt Rostock）　宮﨑 亮…… 15

〈12月例会〉　クリスマス会感想　Alexandra Wolf…… 18

Theo Pach…… 19

〈2月例会〉　C. D. フリードリヒとドイツの美術館　落合 桃子…… 20

《2月例会感想》フリードリヒとドイツのクラシック音楽雑感　加藤 元也…… 22

会員だより

〈新入会員紹介〉

神代 正臣／坂本 隼人／須藤 秀平／瀧下 真由美 …… 25

事務局報告

Ⅰ．2019年度会員動向 …… 26

Ⅱ．2019年度活動報告 …… 26

Ⅲ．2019年度協会収支決算報告、留学生基金収支決算報告および会計監査報告 …… 29

Ⅳ．2020年度活動計画 …… 30

Ⅴ．2020年度協会会計収支予算 …… 32

2020 年度役員等名簿 …… 33
西日本日独協会会則 …… 34
会員名簿 …… 35
編集後記 …… 36

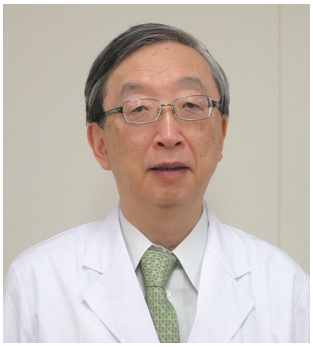
◉広告一覧

同学社 …… 12
城島印刷株式会社 …… 12
藤産婦人科 …… 31

挨　拶

ご挨拶

会長　岡嶋 泰一郎



ご無沙汰しておりますが、皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか？今年、２月の例会を最後に、会員の皆様とお会いすることができず、とても寂しい思いをしています。新型コロナウイルスの蔓延により、日独協会も、総会、例会やビアパーティの機会が失われてしまいました。

そのような中でも、事務局長の福元先生、事務局員の喜多村さんには、事務局業務を継続して行っていただいており、ドイツ語教室は堺先生、シュトロートホフ先生のご尽力で、オンライン授業として開催されています。嬉しいことに、生徒さんの人数も減ってはいません。田口先生が委員長を務められている年報編集委員会は、委員の皆様方にご苦労いただき、今回のような立派な年報が完成し、発行することができました。例会は開催されていませんが、このコロナ禍の中でも、日独協会の活動は、会員の皆様のご協力により続いているのです。ご尽力いただいている皆様に、厚く御礼を申し上げます。

さて、楽しいお話をします。先日、副会長の小黒先生より、WEB による九州大学文学部独文学教室の紹介動画を作成したとのお知らせがありました。例会が開催されない今、少しでもドイツ文化を感じることができればと、日独協会会員の皆様への配信をご提案いただきました。また、同じような紹介動画が福岡大学人文学部ドイツ語学科でも作成されているとお聞きし、九州大学、福岡大学両者の動画を、会員の皆様に配信させていただくこととといたしました。両者とも、大変興味深い内容で、ドイツ文化、ドイツ文学に触れることができ、きっとお楽しみいただけるものと思います。また、動画に登場する若い方々の、ドイツやドイツの文化に対する熱い思いを見ることで、私たちも元気をもらえること請け合いです。動画の URL を文末に記しておりますので、ぜひご覧になってください。

さて、モーツアルトの生地、オーストリアのザルツブルグでは、毎年、夏に世界的な音楽祭が開催され、多くの音楽ファンを楽しませてくれています。この「ザルツブルグ音楽祭」には、世界の超一流の演奏家たちが集い、音楽愛好家たちの垂涎の的となっています。特に、今年は創設100周年の記念すべき年にあたり、200もの公演が予定されていました。ところが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、一時その開催が危ぶまれるようになったのです。その後、感染がある程度落ち着いた頃より、オーストリアでは、いち早く行動制限の段階的解除が進み、政府が大人数の集まる文化的行事への参加制限を緩めたため、「音楽祭」が開催されることとなりました。ただ、感染が終息したわけではないので、会期の短縮（８月１日～30日）、公演数の半減など、規模が大幅に縮小されました。また、オーケストラのメンバーは定期的なウイルス検査を受けねばならず、聴衆は席に着くまでマスク着用、ディスタンスの維持、休憩や飲食物提供はなし、などの感染対策の遵守が求められ

ました。チケットには、購入者の情報を入れ、感染発生時には追跡ができるように、万全の措置がとられました。主催者は、「このような状況下でコンサートが成功すれば、多くの演奏家が、このような時でもコンサートができるんだ、という勇気と自信が持てるようになるだろう。」という趣旨のことを述べていました。芸術立国、オーストリアの人々の「心意気」が感じられ、心強い思いを抱かせてくれます。コロナに対する恐怖、不安にさらされている日々の中、このような「心意気」こそ、人間としての尊厳、そして品格を保つ貴重な宝物でしょう。まさに、オーストリアの精神科医、V.E. フランクルの、「それでも人生にイエスと言う Trotzdem Ja zum Leben sagen」という言葉を思い起こさせます。

西日本日独協会もコロナに負けず、活動を続けています。ワクチンや治療薬が開発されて、いつか、この災厄が終息する日が必ず来るでしょう。その時、また皆様とお会いできることを楽しみにしております。それまでは、「泰然自若、かと言って油断もせず」（牟田病院院長、柳瀬敏彦先生のことば）という気持ちで、この災厄を乗り切って行きましょう。

さて、大変悲しいお知らせを、追記せねばなりません。９月初旬、西日本日独協会の名誉会長、西部ガス相談役の田中優次氏の訃報に接することになったのです。今年の２月に、福元事務局長、宮崎副会長とともに参加した、福岡 EU 協会の催しでお目にかかったばかりでしたので、悲しみとともに、大きな驚きを感じざるを得ませんでした。田中氏は、昨年４月より当協会の名誉会長にご就任いただき、法人会員として、当協会へのサポートをより強化して下さいました。その後も、引き続き、機会あるごとに心強いご支援をいだいておりました。また、在福岡ドイツ連邦共和国名誉領事にもご就任され、昨年５月に行われた就任式は、ドイツ総領事館からケーラー総領事はじめ数名の方が出席され、厳かな雰囲気の中で執り行われました。私もお招きいただき、祝辞を述べさせていただきました。祝辞の中で、ドイツ歌曲を１曲（シューマン〈美しき五月に〉）、ご披露させていただきましたが、このサプライズに、田中氏がとても喜ばれていたことを思い出します。私も、日独協会も、田中優次氏という大きな支えを失ってしまった悲しみでいっぱいです。ここに、私どもの協会にいただいた田中氏の多くのご高配に感謝いたしますとともに、心より氏のご冥福をお祈り申し上げます。

（なお「お別れの会」は、11月10日、ホテル日航福岡にて執り行われました。
私も参加いたしましたが、改めて、失われたものの大きさを感じました。）

九州大学人文科学研究院独文学研究室の紹介動画
https://www.youtube.com/watch?v=8THXj1-geUc&feature=youtu.be

福岡大学人文学部ドイツ語学科「オープンキャンパス動画」
◇ web オープンキャンパスサイト
https://lgs.hum.fukuoka-u.ac.jp/~ynagata/yn_wordpress/
◇公式学科ウェブサイト
https://www.hum.fukuoka-u.ac.jp/ger/

● 寄　稿

Träumerei「ドイツ会館・福岡」

高柳 英子

政令都市福岡には「アメリカンセンター」を始めとして、「日中文化センター」、「アンスティチュ・フランセ」、「ラテン文化センター」、「イタリア会館・福岡」があるのに、いまだに対外的にドイツ語圏の文化を発信する場がない。

時折「イタリア会館」で開催される展覧会や上映会に参加する私は、羨ましくて仕方がない。今泉の瀟洒な季離宮の中という地の利といい、建物といい、リッチな雰囲気。アートスペースギャラリーがあり、語学や料理講座、イタリア雑貨やワインの店、カフェも折々に開かれて、文化全般に触れることができる。イタリア政府が出資しているのか、館内に置いてある高級車のパンフレットから想像するに、企業もかなり投資しているのか。だとすればドイツだって、ベンツやVWや、ワイン輸入業者、製薬会社による資金や場所の提供が期待できそうなものだ。

実行力とお金はからきしないくせに、アイディアだけは次々に繰り出す私は、いろいろな市民組織で、“アイディア・フラウ”と呼ばれている。昔ドイツ語講座を持っていたころ、教室に復活祭の卵探しをする庭やクリスマス・ミサの教会を出現させるなど趣向をこらして、生徒さんから頂戴したあだ名である。「アイディア」は英語で、「フラウ」はドイツ語だから変な言葉だ、という向きには、ドイツ語で「イデー」というと「理念」と間違って解釈されるかもしれず、英独が合体した言葉は英語にも「キンダーガーデン」などちゃんと存在するから、これでいいのだ、と説明することにしている。

で、スイスやオーストリアも巻き込んでの、ドイツ語圏文化を広めるための「ドイツ会館」がある未来の福岡、というアイディア・フラウの“夢想”を、ここにご披露いたしましょう。シューマンの「トロイメライ」でも聞きながら、読み流してください。

会館は例えばベンツかVWの展示場の横に併設としましょうか。ドイツ菓子店や、輸入食料品店とタイアップすれば、生もののトルテは無理でも、クーヘンやドイツ製グミ菓子、スイス製チョコを提供する喫茶店は十分経営していける。ワインやビールを飲んだりできるカウンターも、プレッツェル、ハム、ソーセージの出店で可能だろう。そこを利用しての車の商談もはずみがつくだろうし、ドイツ文化に触れたくてやってきた人も、敷居が高くて入りづらい車の展示場も気軽に覗ける。ウイン・ウインの関係が築ける。

むろん会館のメインは西日本日独協会事務局。ドイツ関係のコンサートや映画情報、旅行ツアーの最新のチラシもここにそろう。ドイツの留学生の友人探しなどのメモを貼りだすボードもあり、友達の輪が広がる。定期的な理事会や小さなドイツ語サークルも会議室で行われる。古い会員の方は、ここで昔の木村会長時代のクリニックの地下の事務局を思い出すかもしれないが、この「ドイツ会館」は広く一般に門戸を開いている点が違うのだ。

アートスペースギャラリーでは、ドイツ語圏に関連するものなら普通の貸し画廊より安く提供されるので、ザルツブルグ手工芸を趣味とす

る人や、ドイツ旅行をしてきた人の写真展など、個人でも気軽に展覧会や講演会ができるし、協会のホームページで宣伝もばっちりやってもらえてありがたい。DVDによるドイツ映画の同好会や音楽会など、小さな催しにもよく利用される。外部の人に対する貸し料は割高なので、入会した方がお得ですよ、と勧めれば、新会員獲得のチャンスも増えようというもの。

部屋には会員の寄付によるドイツ語関係の書籍が充実した書棚がいくつもある。これらの古本には値段が貼ってあり、ここは古本屋を兼ねているのである。売上は全額協会のものとなる。ブック・オフのような店との違いは、寄贈した人の名前や、その本のお薦め理由などが書いてあり、捨て値同然の点。

本だけではない、書棚のあちこちにドイツ・グッズが飾ってあり、これも市価や、古道具屋よりもずっと安い値段で販売されている。ミュンヘンのビールジョッキ、マイセンの磁器、チロルの民芸品、スイスのカウベル、ザイフェンの木製クリスマス・オーナメント、民族衣装。どれにもそれを寄付した人の購入時の思い出話などが書き添えてあるから、それを読んでいくだけでも、興味深い。「あの有名な歌手がウイーン留学した時に、なけなしのお金で買ったというカールツァイスのオペラ・グラスをたったの500円で手に入れた！」とかなる。

老会員は皆、自分の死後、集めた本やグッズが四散したり、ゴミになることを憂えている。自分の愛用の品が時代を超えて、ドイツを愛する若い方々の手に渡り、しかも協会への寄付になるのだから、喜んで提供することだろう。事務局に常設のガレージ・セールの出現なので、いつも一般客が掘り出し物を探してうろつくことになる。その名称は蚤が飛びかう“フロー”・マルクトならぬ、ベートーベンの第九並みに歓喜が横溢する「フロイデ・マルクト」とでもするか。

給料払って事務員さんを常勤させるわけにはいかないので、店員はボランティア募集といこう。店番しながら、昔したドイツ旅行のことでもおしゃべりし放題なら、手の空いている時間、交代でお手伝いしたいという老会員にはことかくまい。しかも値段には会員割引があり、会員は、「とっておきのアンティークのお店、私と行くと安く買えるから」と、友人を誘って出かけてくるので、協会の宣伝も自然にできるしかけ。

あまりに高級な品は、公開オークションを開くのもいいだろう。数年前、東京の古書店でヘーゲルの自筆が書き込まれた本が発見されたというが、会員のお宅には、きっと相当な価値のある物が密かに眠っているに違いない。値段を競り合うスリルも楽しめ、意外なお宝が発見できるかもと、その日はマスコミも駆けつける。クリスティーズの競売でお馴染みの、木槌を机に打ちつけて「売った！」と叫ぶカッコいい役目は、お得意の話術で元池田会長にでも務めていただきますか。

売値がだんだん下がっていくダッチ・オークションも楽しい。「昔のドイツの恋人が贈ってくれた品だから、十万でも手離したくなかったのに」と嘆く老教授の傍らで、奥様がそっと千円で競り落としてくれて、「ほら、一生持っていなさいな」と手渡す……、なんてロマンは絵になるな〜。

こんなのが「ドイツ会館・福岡」。いかがでした？素敵なTräumerei（トロイメライ）楽しんでいただけましたか？我と思わんドイツ企業は、どうぞ名乗り出てくださいませ。福岡の再開発事業「天神ビッグバン」も、商業面ばかりでなく、こんな文化面にもお金を出してくれたなら、爆買いやカジノ目当ての観光客ではなく、真に国際的に開かれた大都市福岡の質の高い文化を求めて、国内外から訪れる人も増えることでしょう。

（たかやなぎ えいこ　会員、ドイツ児童文学翻訳家）

ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』の旅

永元 康夫

2009年初秋。プフォルツハイムを出発した列車は、ヘッセの故郷カルフに着いた。インフォメーションで紹介してもらったホテルに荷物を置き、『ロマンチックなカルフの歴史と観光』（日本語版）を頼りに、マルクト広場にある建物を見学した。ヘッセ生家（ハウス・シャバー）、ヘッセ博物館、プロテスタント町教会、旧ラテン語学校、市庁舎である。さらに、高台にある森と接するシラー通りを歩んだ。途中、基礎学校や基幹学校（Grund- und Hauptschule）、ヘッセ - ギムナジウム（Hesse-Gymnasium）、実科学校（Realschule）があった。基礎学校を終え基幹学校で勉学に勤しんだのであろうヘッセに想いを巡らしてみる。ここからザルツ小路、レーダー通りへと下り、ナゴルト川の左岸を上流に向かって歩を進めた。マルクト広場のレストランで夕食をとり、ヘッセ広場に面したホテルRoesslеの部屋から眼下を眺めた。正面にニコラウス橋が見える。

ニコラウス橋：橋の中ほどの片隅にニコラウス礼拝堂（右手前）、その斜め前にヘッセの等身大の像が建っている。

『車輪の下』（高橋健二訳、新潮文庫）に、受験勉強に疲れた主人公ハンスがニコラウス橋に佇んでいる描写がある。「――古い橋までやって来た。そこでしばらく行きつもどりつぶらついていたが、やがて橋の広い欄干にこしかけた。幾月ものあいだ、毎日四度ここを通りながら、橋畔の小さなゴシック式の礼拝堂も、川も、水門も、せきも、水車も目にとめなかった。水泳ぎをする河岸の草原や、柳のはえた川っぷちさえも、見ずにすごした。」自然をこよなく愛する少年ヘッセは、野の花を愛で、樹木を観察し、雲の形と流れを眺め、魚釣りをし、水浴びをして過ごした。カルフの天才児ヘッセは優秀な成績でマウルブロン神学校に入学したが、僅か半年後神学校を脱走し、その２カ月後に退学する憂き目を味わっている。いったい、ヘッセに何がおこったのであろうか。

７年後。2016年初秋、正午前。マウロブロン修道院を訪れた。門をくぐると広場があり、正面に修道院がある。自伝的小説『車輪の下』に描かれるヘッセのマウロブロン神学校での生活が窺える。『ヘルマン・ヘッセへの旅（とんぼの本）』（高橋健二、柴田泉、櫻井寛著、新潮社）から抜粋する。「入学当初のヘッセは授業にも熱心で、得意とする古典やギリシャ語、ラテン語はとくに楽しい授業だったようである。教師にも好感をもち、同級生に自作の詩を朗読して聞かせたりもした。彼が故郷の両親に宛てた手紙にも、厳格な学寮の生活にも素早く適応したことや、修道院に隣接した養老院の火事での活躍、同級生のことなど、さまざまな報告が記されている。――そんなヘッセだが、クリスマスのころから感情の高ぶりをみせはじめ、朗らかに楽しくはしゃぐかと思えば、激情的に詩をつ

くるなど、不安定の心理状態を垣間見せることがたびたびあったという。そして、年を越した三月七日、ヘッセは暴発的に脱走を図る。」

この修道院を見学すれば、その当時のヘッセの心情をくみ取れるかもしれない。わたしは広い回廊を歩んだ。ゴシックとロマネスク様式を備えた重厚で見事な石造建物だ。天井は高い。しかし、回廊は擦り切れて色あせている。中庭から柱の間を通って光が差し込んでいるが、9月の陽光は回廊を明るく照らしていない。薄暗い回廊だ。入学した9月から失踪した翌年3月まで、弱い陽光のもとヘッセたちはこの回廊を黙々と歩んだのであろう。ここから中庭に張り出した小さな礼拝堂があり、その中心部に噴水がある。この噴水は神学生たちに安らぎと憩いを与えたのだろうか。わたしは中庭に出、回廊と礼拝堂を眺めた。回廊は相変わらず暗かった。その内側に40名ほどを収容できる部屋が幾つかある。ここで授業を受けたのだろうか。祈祷室は独特な間取りである。中央に祭壇があり、前方は祈祷席、後方は間仕切りのある閲覧机が整然と並んでいる。ここで聖書にふれ、賛美歌を歌ったのだろうか。独特な雰囲気が漂う薄暗い空間だ。息が詰まりそうだ。さらに、厳格な規律が神学生たちを押さえつけていたようだ。

入学と同時に入学前の受験勉強のような勉学が始まった。科目はヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語、数学、聖書学、古典的な礼式。息が詰まるような知識偏重の教育である。神学生たちの生活は、ほとんどが寄宿舎と修道院の往復であったが、寮生活での娯楽と寮生同士の交流が息抜きとなっていた。ハンスの友人はヘルマン・ハイムラーだけであった。ヘッセは、己の分身であるハンスとハイムラーを『車輪の下』で次のように描いている。「ハンスは驚きをもってそれらを傍観しながら、善良なおとなしい仲間として静かに自分の道を歩んでいった。彼は勤勉だった。――そしてハイルナーを除いては、同室生の尊敬を受けた。ハイルナーは天才的奔放を旗じるしにし、ときおりハンスをくそ勉強家とののしった。――抒情的なヘルマン・ハイムラーは、毎日の外出時間にひとりで森の中をさまよった。彼が特に好んで訪れた森の湖は、アシのやぶに囲まれ、枯れゆく古い闊葉樹の樹冠におおわれた、憂鬱な褐色の池だった。」

ヘッセは己の生来の神経症的資質と几帳面な一面をハンスに、自然の申し子であり詩的心情に恵まれた己の一面をハイルナーに負わせている。二人は深い友情で結ばれるが、ハイムラーは春の訪れの前に神学校を脱走し放校となる。ハイムラーから影響を受け自我が目覚めたハンスは、勉学に身が入らなくなり失態を繰り返し、まもなく神学校を去る。『車輪の下』の最終章が浮かんできた。「そのころ、そんなに脅かされてハンスは、もう冷たくなって静かにゆっくりと暗い川の中を下手に流れていた」。自殺（または事故死）を匂わせるハンスの悲しい結末である。一方、ハイルナーは「――大人物といわないまでも、しっかりしたりっぱな人間になった。」とあり、明るい結末となっている。対照的な二人の結末に思いをはせながら修道院を後にした。

（ながもと やすお　会員、内科医）

● 例会と催し

京都からドイツへ　～元禄の押絵雛の再発見～

4月例会 April

シュヴァイツァー アントン

私は近世美術史を専門とし、建築やインテリアにおける空間構造の研究をしています。近代ヨーロッパにおける日本文化の受容を含め、日本とヨーロッパの間の美術的交流や転移についても興味があります。現在、1710年から1727年の間に建てられたドイツ南西部ラシュタット近郊にあるファヴォリーテ宮殿の緑の間に飾られたオブジェに関するプロジェクトに取り組んでいます。（図１、２）これら23のオブジェは17世紀後半に日本で「押絵」の技術によって作られたものです。これらのオブジェが特別な、または壮大とも言える点は、その古さと綿密な調査によって明らかになった情報の豊富さにあります。

図１　ファボリーテ宮殿

図２　ファボリーテ宮殿　緑の間

「押絵」とは文字通りトレース画、またはトレースによってコピーされた絵のようなものを意味します。トレースによってコピーするとは、ほとんどの場合において製作者が自らデザインせず、他者の既存の作品をコピーしたことを指しています。技術的に説明しますと、押絵は通常、分厚い紙を切って作られた土台のシルエットの上に、成形された張り子や綿入り・刺繍入りの織物を使ったコラージュを作り上げていきます。細部は墨や色付けによって描かれています。（図３）

1970年代の文化財保護の際、こちらの紙に印刷されたラベルが、押絵の裏側に発見されました。研究者からはずっと無視されてきましたが、このラベルは実際は重要な証拠なのです。このラベルには、「京（都）四条通　小橋町」という住所と、「藤屋三郎兵衛」という店の名前が記されています。（図４）

図３　押絵

図４　ラベル

藤屋三郎兵衛の店は元禄時代の京都についてのガイドブックに記されています。（図５）この２冊のガイドブックの記述は短く、内容はほとんど同じです。ガイドブックに載っていることから、この店が高い評価を受けていることがわかります。この店では主に、２種類の商品を扱っていました。一つは衣装人形、もう一つは御所文庫と呼ばれる、張り子で作られた小さな身の回りの調度品の一種です。つまり藤屋は、図５が示すような張り子師でした。ほとんどすべての工房と同じように張り子師も家内制で、店で商品を売るだけでなく、そこで製作も行っていました。この図では、妻が小さなテーブルに向かって座り、夫はキセルを吸っています。妻はナイフを２本とはさみ、のりが入っている小さな入れ物をテーブルに置いています。床と後ろの棚には、完成した作品が並んでいます。動物や貝殻の形をした入れ物や、蓋に花のモチーフがある四角い箱が見られます。これらの小さな箱は、藤屋における主力商品だったはずです。なぜなら、本来あり得ない歴史の偶然により、このような作品のいくつかがヨーロッパの王侯のコレクションとして残っていて、そこに藤屋の工房の同じラベルがまだついたままなのです。

先程の張り子師の図の右上に、ファヴォリーテ城の作品（図６）と多少似た感じの女性の絵があります。この描写は、このような押絵作品への典型的な題材使用についての議論へとつながっていく可能性があります。

日本の押絵のヨーロッパへの転移と、それらのファヴォリーテ城への編入は、作品の受容についての劇的な変化を意味しています。本質的に非常に特殊でパフォーマティブな背景を持つ短命なオブジェが、インテリア装飾として永久的に設置された静的要素へと変わったのです。

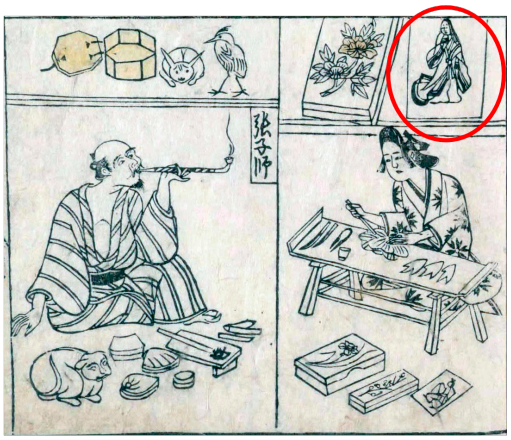


図５

図６

比較的質素なオブジェ、最も安価な種類の操り人形、遥かに手が込んでいて技術的に進んだものの代用品といった扱いだったものが、珍重され、非常に貴重な、そして最も好奇心をそそるものとなりました。ファヴォリーテ城の押絵作品は、近代グローバル化の期間に数えきれないほど様々な形で生起した、解釈・評価・典型化における大きな変化を、日本からヨーロッパへの移動において具体的に示す、移転したオブジェの典型的な例です。

（Anton Schweizer　会員、九州大学人文科学研究院教授）

九州大学伊都キャンパスツアー

小黒 康正

九州大学は、長年慣れ親しんだ箱崎キャンパス（福岡市東区箱崎）を後にして、2018年の夏、糸島半島にある伊都キャンパス（福岡市西区元岡）に移転した。そこで、西日本日独協会会員の皆さまに特別に新キャンパスを案内するため、小黒康正が中心となって、福元圭太、今井宏昌、大澤遼可、以上の４名が「チーム・ドイツ」を結成し、九大の研究施設をお見せしながら、九州大学における「ドイツ」を紹介することにした。参加者は17名、但しその内非会員７名であり、会員の参加者は例会にしては少なかったので、ここでは本企画に参加されなかった方々に九大新キャンパスの魅力をお伝えしたい。

伊都キャンパスは、福岡市中心部から約15 kmという距離でありながら、玄界灘をのぞむ自然豊かな環境にある。『魏志倭人伝』に出てくる伊都国があった土地だ。今は大きく様変わりしたが、いまだイノシシが出没するので、その点で古代とさほど変わらない。いささかワイルドな土地にふさわしく、九大には狩猟研究会、通称「狩り部」がある。ドイツではどちらかと言えば町の中心部に大学の施設が散在するが、これに対してアメリカでは、同僚のアメリカ人によれば、大学のキャンパスは山にあるのが理想らしい。九大は移転を通じて糸島の古代に、あるいはアメリカの理想に近づいたのかもしれない。

ツアー参加者は2019年５月25日（土）の14時にJR筑肥線「九大学研都市駅」の改札口に集合した。同駅は2005年９月23日に開業した新駅、いわば九大の玄関口である。ちなみに九大伊都キャンパスの開校日は同年10月１日であった。私もそうだが、教員や学生の多くは福岡市内に住む。そのせいだろうか、通勤通学の際に筑肥線を利用する方は、進行方向に対して左側の席に座られる方が多い。能古島と生の松原をのぞむ絶景を満喫するためだ。私事だが、学生時代、函館本線を走る電車に乗って小樽の自宅から札幌の北海道大学に通った。かつての通学路と今の通勤路を私は「日本二大通学路」と勝手に呼んでいる。

伊都キャンパス全景

私たちはまず昭和バスに乗車して、伊都キャンパスに向かった。北海道大学も、広島大学も、筑波大学もかなり広い。しかし、伊都キャンパスは単独キャンパスとして日本で一番広いらしい。本当にそうだろうか。そう思った私は、ジョギングシューズを履いて、移転後すぐにキャンパスを走って一周したことがある。私なりに日本一の広さを実感した。この事実をツアー参加者の皆さんにも実感してもらいたいと思ったが、５月にしてはかなり暑い日だったので、密かな計画は取りやめ、キャンパス中心部の理学部前バス停で下車した。それでも文系キャンパスがあるイーストゾーンまで1.5 kmほどあるのではないか。

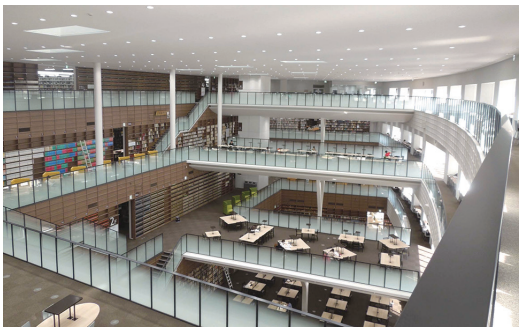
私たちは理系地区ウエストゾーンから基幹教育（かつての教養部）施設のあるセンターゾー

ンを通って高台にある文系地区イーストゾーンに入っていった。途中、長さ59.5mの九大ゲートブリッジを渡ったので、この距離でも九大の広さを実感できたはずだ。丘の上では福元氏が私たちを待っていた。氏の案内でイースト１号館C棟９階に上がると、我々が目にしたのは石ヶ原古墳跡展望展示室である。高台を削る前はかつてこの位置に６世紀築造の古墳があったとのこと、歴史的環境資源の保存と活用に作られたこの部屋は、実は噂の絶景スポット、私たちは古代のロマンに浸りながら、キャンパス全体の他に、博多湾や雷山を見渡した。

石ヶ原古墳跡展望展示室

その後、私たちは文学部独文研究室に向かう。そこでは福元氏が九大の外国語教育について、当方がドイツ文学研究について説明し、その後向かった文学部西洋史学研究室では今井氏がドイツ史研究を紹介された。もっとも教員以上に熱く語ったのは、大学院生たちだ。独文研究室では大澤遙可（博士後期課程）がロマン派の詩人ノヴァーリスにおける「青」について、西洋史学研究室では坂本隼人（修士課程）がナチ占領下フランスの対独軍事協力について、平田哲也（修士課程）がブーヘンヴァルト強制収容所におけるドイツ共産党員ついてそれぞれ話されたが、三人の話に私たちはすっかり引き込まれた。やはり若者の言葉は熱い！

次に私たちが訪れたのは中央図書館だ。国内の大学図書館で最大級の図書館だそうだが、私なりに言えば、ドイツ映画『ベルリン・天使の詩』が映し出した図書館のように天使が降り立つ所であり、1400ある座席のどこかで天使がリルケを読んでいるのかもしれない。参加者は当方の案内で４層吹き抜けの巨大な空間を４階から１階まで舞い降りた。独文学研究室が誇る「雪山文庫」「高橋義孝文庫」「東ドイツ文学文庫」を見るためだ。１階には言語文化部の先生方が購入されたドイツ語学文学関係の本も多数ある。更に貴重図書室にあるトーマス・マン直筆の手紙やクリスマスカードは、九大の知られざるお宝と言えよう。



中央図書館

こうして私たちは、伊都国をしのび、アメリカ的理想を体感しながら、ドイツを堪能した。時刻はもう17時半だ。ツアーの最後はやはり「イタリア紀行」だろうか。約3000人収容可能な巨大ホールをもつ椎木講堂に私たちは向かう。講堂の一角には本格的なイタリアレストラン「イトリー・イト」がある。私は糸島の食材料理に舌鼓を打ちながら思った、この新キャンパスに宿るゲニウス・ロキはどんな土地の精神だろうかと。そう思っていると、いつもの例会とは違い参加者の中に４人の高校生がいることに気がついた。彼らのおかげで懇親会はいつも以上に盛り上がったのだ。もっとも私たちが目にしたのは４人の天使だったのかもしれない。

（おぐろ やすまさ　会員、九州大学大学院
人文科学研究院教授）

5月特別例会　感想

宮﨑 亮

午後２時半頃、理学部前で昭和バスを降り、小黒教授（当協会副会長）の案内で一行はウエストゾーンの理系ブロックからイーストゾーンの文系ブロックに向かって歩く。土曜日の午後で、キャンパス内に人影はまばら。東西にながい壁のような一連のビルが続く。一行の中には、４名の高校生が含まれる。中村女子高校の２年生２人、修猷館高校１年生１人、東福岡高校１年生１人である。

イーストゾーンで一番の見晴らしを誇る石ヶ原古墳跡展望展示室からの絶景。背振山系の山々、今津湾・博多湾を背景に緑豊かな自然に恵まれた丘陵の広大なキャンパス。数々の前方後円墳や円墳のほか、古代の鉄製工具の生産集団の存在、など、伊都国の遺跡に触れることができた。大陸からは人と文化が朝鮮半島・対馬・壱岐を経て九州にたどり着く玄関口。逆に、倭国から大陸への出発点。歴史を直に感じることのできる場所である。しかし、たくさんの古墳や生活の場であった丘陵地を切り開いての巨大構造物は、古墳の主の安眠を妨げ、気分を害したであろう。イノシシやウサギなどの野生動物にとっては、万里の長城、ベルリンの壁、あるいはガザの壁であり、南北の往来が妨げられ、その城守たる大学人に怒りを表すことも当然あろう。

独文研究室では、小黒教授と福元教授、大澤大学院生から、母語と英語以外にもうひとつの外国語を学ぶことの意味、つまり言葉を学ぶことはもうひとつの思考回路を手に入れることであるむねのお話を伺った。

西洋史研究室では、今井講師と２人の大学院生より、ナチスの強制収容所内の実体や、ドイツ民主共和国自体が歴史研究の対象となっていることなど、ドイツの近現代史のお話を伺う。1919年のワイマール共和国発足から、ナチスの暴力支配による非人間的システムからの解放までがわずか26年。その後、1949年５月23日、西側にボンを首府とするドイツ連邦共和国（通称西ドイツ）が発足し、同年10月７日にドイツ民主共和国（同東ドイツ）が建国されることで、1989年のベルリンの壁崩壊を経て1990年10月３日に西側への東側５州編入という形で再統一されるまで、実に41年もの間２つのドイツ国家が存在した。その後のヨーロッパ統合の動き、EU発足、反EU運動など、1919年からこの100年のめまぐるしい動きを、一つ一つその意味を考えて、次の100年につなげねばならないだろう。

次に中央図書館を訪れた。広い吹き抜け構造、学生や研究者にとって十分なスペースと、使用目的によって異なる設備を提供した、とても贅沢な施設である。こんなすてきな図書館が、交通の便のいい街の中にあって、だれでも自由に、仕事が終わった夜でも使えるような時代を待ちわびると共に、改めて都心からキャンパスまでの距離を感じる。

最後にイタリアレストラン「イトリー・イト」での懇親会。糸島のおいしい食材のごちそうと、きりっと冷えた生ビール、ワイン、ソフトドリンクが並ぶ。このツアーによって、九大が、積極的に学生を海外に留学させる工夫をしていることや、海外からの留学生の割合が、日本の大学の中では上位に位置することが理解できた。高校生４名の感想からも、今後の、進路や、海外での生活について考えるいい機会になった様だ。大学を見学し、その研究内容に触れる試みは大成功。九大の「チーム・ドイツ」に感謝。

追記

この会の後、７月13日、福岡大学文系センターにおいて、ドイツ連邦共和国大阪神戸総領事館・総領事ご参加の下、DAAD などの紹介・講演会・懇親会が開かれ、たくさんの学生とも交流が図られた。これからも何らかの形でドイツに関心を持つ若い人たちに、もっと情報提供できる機会が増えることを願う。

（みやざき りょう　会員、木村病院）

アポロン独和辞典〔第３版〕

初学者のために徹した
最新の学習ドイツ語辞典！

根本・恒吉・吉中・成田・福元・重竹
有村・新保・本田・鈴木　［共編］

２色刷・B6 判・1836 頁・箱入り
定価 本体 4,200 円（税別）

ドイツの標準語 ― その生い立ちと辞典の個性 ―
根本道也　著　A5 判・並製・272 頁　定価 本体 2,800 円（税別）

やさしい！ドイツ語の学習辞典
根本道也　編著　２色刷・B6 判・770 頁・箱入り　定価 本体 2,500 円（税別）

ドイツを旅する若者へ
新・実用ドイツ単語・会話集
根本道也　編著　新書判・348 頁　定価 本体 2,000 円（税別）

〒112-0005 東京都文京区水道 1-10-7
Tel 03-3816-7011　Fax 03-3816-7044
同学社
http://www.dogakusha.co.jp/

言花

もはや、「言葉」では、満足できない。

●

小さくても雄々しく咲いているものを。
実をなす季節を孕っているものを。
一掴みの文章。一握りの作家。
毒があってもいい。甘い蜜ならなおのこと。
言花をもつ本が、一冊でも多く陽を集めるよう。
人々に、色と薫りを運ぶよう。

●

いま、ここに種を蒔く。

同人誌・会報・機関誌、
小説集、歌集、句集、自分史などの
自費出版物を編集発行します。

花書院
図書出版
〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9番2号
TEL.092-526-0287　FAX.092-524-4411

城島印刷株式会社　〒810-0012　福岡市中央区白金2丁目9番6号
TEL.092-531-7102　FAX.092-524-4411

日本の鉄道・ドイツの鉄道

6月例会 Juni

― 日蘭大陸横断レールクルーズ・ユーラシア大陸横断14,000km 鉄道の旅 ―

講演：川口　史　（かわぐちふみと・JR九州セコム社長）
報告：宮﨑 亮

講演された川口 史 氏

私の中学時代からの友人、川口史（かわぐちふみと）氏は東京大学法学部を卒業後、国鉄に入社。総裁室法務課、米国パデュー大学経営大学院留学、旭川鉄道管理局などを経て、国鉄分割民営化、JR九州発足と共に、出身地福岡に戻られ、JR九州の要職を歴任される。JR九州のアイデアマンで、九州管内を走る特急列車の斬新なデザイン、博多－釜山の高速船ビートルの運行などを手がけられる。講演では、九州の鉄道とドイツとの関わり、ドイツ連邦鉄道の民営化後の現状などのほか、氏が、JR九州旅行事業本部時代に、日本・オランダ交流400年を記念して2000年に行われた大陸横断レールクルーズの企画から実施まで一貫して関わられたツアーリーダー御本人しか語ることのできないお話であった。数年前から氏にお願いしていた講演がやっと実現し、例会には、西日本日独協会の会員以外にも氏を知る友人たちが多く参加された。

ドイツと九州の鉄道とのつながりは、1887年プロイセンの鉄道技術者、ヘルマン・ルムシュッテル（1844-1918）が、九州鉄道の事業開始のために日本に派遣されてからである。1987年、まさにルムシュッテルが来日して100年後、国鉄は解体、分割民営化され、JR九州が誕生した。その、国鉄解体、民営化を、ドイツを含む海外の鉄道が参考にし、調査チームの来日につながった。日本・欧州共に、20世紀初頭から1960年頃までは、各国の鉄道は、ほぼ独占的な中長距離輸送機関として発展したが、その反面、採算性の悪い地方交通網をも抱え込んだ。1960年頃より高速道路の建設に伴うモータリゼーションと、航空路線の発展に押され、鉄道は急速に競争力を低下させ、毎年赤字を生み、大きな負債を抱えるに至った。

「鉄道は地上設備と車両側が一体となった技術システム」との基本理念を持つ日本は、地域毎の垂直分割（地域分割）を行ったが、ドイツ連邦鉄道は水平分割、つまり、鉄道インフラ事業と列車運行事業とを分離する「上下分離」を採用した。「列車運行のオープン・アクセス」の原則、鉄道（レール）は道路と一緒で、その上を走る乗り物は別の運用でいいのだとする、昔から国際列車の相互乗り入れを行ってきたヨーロッパの考え方がそうさせた。

EUの「統一経済圏の確立」という基本理念

に加えて、鉄道インフラ事業と列車運行事業の分離、すなわち列車運行会社が適切な使用料を支払うことにより線路を使用できること（オープン・アクセス）が定められている。1872年ドイツ帝国主導の５カ国で創設された「国際時刻表会議」は、国際列車の運行を可能とした。以降、複数国の客車が併結され、複数国を貫いて走る国際列車が多数運行されてきた。1997年EU指令による「ヨーロッパ列車フォーラム」が定期的に開催されている。

山岳が多い日本と違い、平地の多いドイツでは、人口あたり、面積あたりの鉄道敷設距離が格段に多い。その分、鉄道維持に費用がかかっている。モータリゼーション、アウトバーンの拡充も相まって、鉄道経営は結構厳しそうである。1994年、旧西ドイツのDeutsche Bundesbahnと 旧東ドイツのDeutsche Reichsbahnを合併してDBAG設立。鉄道インフラを保有する部門は、「公共的事業」として、ほぼ国有とのこと。現在、旅客輸送会社を遠距離輸送のDB Fernverkehr、地域輸送をになうDB Stadtverkehrとに分割。インフラ保有会社のDB Netzeは、駅の開発・運営を行うDB Station & Serviceを統合。貨物部門のDB Cargoはオランダ国鉄・デンマーク国鉄などを統合し、Schenkerと社名を変更している。

オランダは九州とほぼ同じ面積と人口を持ち、ヨーロッパの二つの鉄道大国、ドイツとフランスから高速列車の乗り入れがある。

2000年９月10日から10月８日にかけて、日蘭交流400年を記念して日本側50人、オランダ側（ヨーロッパ各地より）50人が１ヶ月間にわたって共同生活をしながらの鉄道の旅が催された。西安の書店で偶然目にした「欧亜大陸横断鉄路橋」（シルクロード経由のユーラシア大陸横断旅行）というタイトルの書籍からの「ラクダの背の高さの視点」からヨーロッパ～アジアの景色の移り変わりを観察できる旅への憧れが、川口氏を動かした。実施にあたっての準備やご苦労は、参考資料の『歴史街道』2001年１月号－５月号、５回連載に記載されているのでここでは割愛する。10月７日、ツアーの終点、長崎ハウステンボスには、オランダ国旗を掲げた帆船で入った。両国の運輸大臣も出席の上でのセレモニーで行われた、ツアー参加者代表のスピーチは、以下の通り。

「このツアーは、JR九州とオランダ国鉄のみならず、通過した多くの国々の鉄道マンの協力があって初めて可能となったものです。私たちはこの旅で、日本とヨーロッパの間に多くの国々、多くの民族、多くの文化があることを知りました。富める国も貧しい国も、平和な国もそうでない国もあることを知りました。今、この旅を振り返るとき、これらの全ての国々、民族が平和で幸せであることを祈らざるをえない気持ちとなります。」

この旅は、2001年に日本旅行業協会と日本旅行作家協会が実施する2001年のツアー・オブ・ザ・イヤーの最高賞（グランプリ）を受賞した。しかし、同年発生したアフガニスタン戦争の戦闘地域に近接したルートであったため、再催行されてはいない。この地に安心して旅ができる平和な時を再び迎えたいものである。

参考文献：配付資料『歴史街道』2001年１月号－５月号、５回連載

（みやざき りょう　会員、木村病院）

ハンザ&大学都市ロストック 600-800
(Hanse- und Universitätsstadt Rostock)

10月例会 Oktober

宮﨑 亮

2018年はロストックが都市として認められて800年。2019年は、北ヨーロッパで初めての大学がロストックに創立されて600年の記念すべき年であった。私は2019年７月上旬の５日間、ベルリン、ギュストロウ、ロストックに旧友を訪ねた。ヘルシンキからベルリンまでは２時間、バルト海の上を飛ぶ。飛行機の左にポーランドの海岸線やウーゼドム島、農地と森と湖の平たい土地のフォアポメロンからブランデンブルク、そしてその先にベルリンのランドマークになっているテレビ塔が見える。飛行機はテーゲル空港に着陸する。迎えてくれたセイロン人の男性とドイツ人女性夫妻は、市中心部の内務省に近いシュプレー河畔の木々に囲まれた静かな集合住宅に住む。2011年以来８年ぶりの再会である。BMW で情報エンジニアをしている息子とギムナジウム物理教師の娘はすでに独立し、二人とネコ一匹の穏やかな生活を送っている。

ベルリンとギュストロウは約200km の距離。アウトバーンの改良・拡張工事が至る所で行われている。旧東ドイツ地域のインフラの立ち後れへの投資が優先され、旧西ドイツ地域では、インフラ維持のための施策が不十分との声が聞かれる。ブランデンブルク州からメクレンブルク＝フォアポメロン州に入る。メクレンブルクは山のない、農地と森と湖の平たい土地なのだが、以前の風景と決定的に違うのは、至る所に発電用風車の群 „Windmühle Park“ が見られる点だ。バルラハ市・ギュストロウで泌尿器科の開業医であった友人は65歳で医院を譲渡し、年金生活に入った。戸建ての庭には小さな池と鳥

ロストックの街並み　1600 年ごろ

ロストックの旧市街　北側より

のえさ場があり、毎日 3 kg のえさを準備する。薬局を経営する妻とシェパード犬と暮らしている。

ギュストロウからロストックは約40km の距離。8 世紀にスラブ系の住人がヴァルノウ川の流れが急に広くなったところに住み着いたのが、ロストックの歴史の始まりだ。12世紀にはホルシュタイン、ザクセン、ウエストファーレン、デンマーク、スラブなどからの人々が街を形成し、城壁を築いた。1283 年、ロストックはハンザのヴェンド会員となる。1410年には、14,000の人口を持つ北ドイツでもっとも大きな都市の一つであった。1669年、最後のハンザ大会までリューベックに次ぐ都市同盟内での指導的地位を維持していた。

ローマ教皇の許可を受け、1419年、北ヨーロッパで最古の大学がロストックのマリエン教会で始まった。160名の学生が、法学・医学・哲学の 3 学部で学期を開始した。ロストック大学は、„Academia Balthica“（バルト海の大学）と呼ばれた。

30年戦争はロストックのみならず北ドイツ各地を荒廃させた。さらに1677年の壊滅的な都市火災で、ロストックは 1 / 3 の家屋を失い、人口は5,000まで減少した。ピョートル 1 世のもとで北方戦争に勝利したロシアがバルト海の制海権を握る。七年戦争中の1758-1762年、ロストックはブランデンブルクに占領された。ロストックの復興が始まったのは18世紀の末からである。

1850年、ネプチューン造船所がロストックにつくられ、1851年には、ドイツで初めてのスクリュー式蒸気船「フリードリヒ・フランツ大公」を進水させる。また第 1 次世界大戦中には、海軍のため、掃海艇や潜水艦を建造。ドイツ軍事産業の中核である。

1918年、キールの軍港で水兵の反乱が起こり、兵士評議会が戦争の終結、皇帝の退位、自由な共和国、女性への参政権などの政治的要求を掲げた。それに連帯し、ロストックの労働者も、労働者評議会を創った。ドイツ革命（11月革命）である。ワイマール共和国時代のもっとも重要な産業施設はネプチューン造船所であった。さらにロストックの北、ヴァルネミュンデには航空機メーカーのアラドとハインケルが設立された。第 3 帝国の軍事産業の中心であったロストックは、第 2 次世界大戦中、激しい空爆を受けた。東西ドイツの時代には、ロストックは DDR の海の玄関として整備される。

ロストックは城壁に囲まれた旧市街と、城壁外の新市街とに分けられる。東の旧市場に建つ聖ペトリ教会は戦後、尖塔を失ったままであったが、117m の塔が戻り、再びロストックの „Landmark für Seeleute“（船乗りのランドマー

マグデブルク戦没者記念碑
バルラハ

ロストック大学本部

ク）としてよみがえっていた。大学本館となりの修道院の建物の一部は博物館になっており、建学600年の展示を行っていた。

私が1975-1982年の７年間生活した11階建ての寮は相部屋から個室に変わっていた。住んでいた４階まで上がって、踊り場から37年ぶりに外を眺めてみた。当時空き地だった場所には新たな図書館や、電算機センターなどの施設がつくられ、新たなキャンパスとなっている。

市の西側の、大学病院からそう遠くないところにFCハンザ・ロストックの本拠地オストゼースタジアムがある。ブンデスリーガにもいたことのあるチームであるが、現在は３部に落ちている。そのスタジアムのすぐ近くに、ドイツ海軍の司令部が置かれている。ロストックについたその日の夕方„Zum alten Fritz“と言う居酒屋で友人たちと待ち合わせをした。ここは、中心街から北側に100mほど下ったところのヴァルノウ川沿いの水際である。第２次大戦後、DDR時代にはソ連軍の管理下にあり、市民の立ち入りは許されなかった。今ではヨットや遊覧船が停泊し、レストランやカフェ、居酒屋のある市民のくつろぎのスポットとなっている。

航海大学を優秀な成績で卒業した友人は、学生時代のちょっとした政治的発言から、DDR時代には、西側諸国に出ることを許されなかった。統一後はアフリカや南米での仕事を経て、年金生活者となった今は年の半分を、海外でゆっくり過ごしている。ロストックの開業医であった一人は、65歳で診療所を閉じ、２度目の大学入学を考えている。もと化学コンビナートの労働者であった友人は、図書館通いやサイクリングの日々を楽しんでいる。ベルリンの壁開放（解放、崩壊）後の1990年、ギュストロウの友人の車ヴァルトブルクでロストック－ヴェルニゲローデ－ゴスラウ－ケルンと一緒に旅行した。ヴェルニゲローデ（年報39号 P.25「ハルツの街々」参照）とゴスラウの中間点、ハルツ・ブロッケン山の東西ドイツの国境だった所を通過するときの彼のつぶやき、「ここは国境だったんだ。ここを超えるまでに時間がかかったものだ。」を思い出す。

DDR（1949-1990）は、社会保障や女性の地位向上など、ワイマール共和国が目指した民主主義を実践してきた。DDRの40年を民主主義と社会主義の実験の場ととらえ、歴史研究の対象とすることは、今後の未来社会の選択枝を広げる一つの手掛かりかと考える。DDRが消えて30年の今年もDDRを生活してきた友人たちに乾杯。

（みやざき りょう　会員、木村病院、
1973-1982 DDR留学、ロストック大学卒業）

西日本日独協会のクリスマスパーティー

アレクサンドラ・ヴォルフ

西日本日独協会のクリスマスパーティーにご招待されたことを、私はとてもよろこびました。当日のパーティーは、私の想像をはるかに越えてすばらしいものでした。

なんと多くの人々がここに集い、なんと強くドイツに関心を抱いていることか。いろいろな方々と知り合ったのですが、皆さんは私に日本語ではなくドイツ語で話しかけてくれました。私が何か日本語で言おうとすると、自分でもちょっと可笑しく思えるほどでした。

お知り合いになった方々がドイツ語やドイツ文化に関わるようになった理由は多種多様で、ドイツで生まれて両親とともに日本に帰ってきた方もいれば、学生時代にドイツの作家に大きな関心を持った方もいました。留学や仕事の関係で、長期間、あるいは短期間ドイツにお住まいだった方もいました。

皆さんの思い出話やこれからの計画を楽しくお聞きしながら、西日本日独協会でのひとときを堪能いたしました。誰もが温かく、また司会お二方の進行は楽しく、こうした雰囲気が（とりわけ歌が)、クリスマスにぴったりだと思いました。

イベントの企画運営、なによりご招待に心より感謝しております。

もしまたこのような会に参加する機会がありましたら、うれしく思います。

Ich habe mich sehr über die Einladung zur Weihnachtsfeier der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Westjapan gefreut. Meine Erwartungen an die Veranstaltung wurden weit übertroffen.

Ich war überrascht, wie viele Menschen vor Ort waren und großes Interesse an Deutschland haben. Ich bin mit vielen verschiedenen Menschen in Kontakt gekommen und von allen wurde ich auf Deutsch, nicht auf Japanisch angesprochen - mir kam es manchmal sogar ein bisschen komisch vor, wenn ich etwas auf Japanisch sagen wollte.

Die Menschen hatten ganz verschiedene Gründe, wie sie zur Deutschen Sprache und/oder Kultur gekommen sind. Manche sind in Deutschland geboren und mit ihren Japanischen Eltern zurück nach Japan gekommen, manche haben in der Studienzeit ein großes Interesse zu Deutschen Schriftstellern aufgebaut, manche waren für kurze oder lange Zeit in Deutschland zuhause, um dort zu studieren oder zu arbeiten.

Es war sehr spannend, all die persönlichen Geschichten und Pläne für die Zukunft zu hören und die Atmosphäre der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Westjapan zu genießen. Alle waren herzlich, die MCs

waren unterhaltsam und das Ambiente, besonders die Lieder, haben gut zu Weihnachten gepasst.

Vielen Dank für die Organisation, besonders aber für die Einladung!

Es würde mich freuen, erneut an einer Veranstaltung teilnehmen zu dürfen.

2019年12月20日
日独協会クリスマス会

テオ・パッハ

日独協会のクリスマス会、本当に楽しかったです。これほど多くのご年配の方々がドイツやドイツ語に関心を持っておられるとは、驚きでした。

日本にいながら、まるでドイツにいるかのようなクリスマスを過ごすことができて、本当によかったと思います。食事も自家製のグリューヴァインもおいしかったです。参加者全員とお話しする時間はさすがにありませんでしたが、お話しすることができた方々は皆優しく、ドイツ語が本当に上手でした。初めて生で聴いたグロッケンシュピールも格別でした。演奏者のお一方はグロッケンシュピールを演奏するのが初めてだったとのこと、実に驚きました。

福岡市とその近郊に住む他のドイツ人たちと知り合いになれたのもうれしいことでした。こんな素敵なことづくめのパーティーにご招待してもらったことを、とても感謝しております。そして最後にはプレゼントまで！完璧なクリスマスとなりました。

御招待、ありがとうございました。

Weihnachtsfeier der deutschen Gesellschaft am 20.12.2019

Die Weihnachtsfeier hat mir sehr gut gefallen. Es hat mich überrascht, dass so viele ältere Menschen sich für Deutschland und die deutsche Sprache interessieren.

Es war sehr schön auch in Japan ein an Zuhause erinnerndes Weihnachtsfest verbringen zu können. Das Essen war sehr lecker und der selbstgemachte Glühwein war wunderbar. Es war zwar etwas zu wenig Zeit um mit allen sprechen zu können, aber die, mit denen ich gesprochen habe, waren alle sehr nett und konnten wirklich gut Deutsch sprechen. Das Glockenspiel war auch eine Besonderheit, bis dahin hatte ich so ein Instrument noch nie live gehört. Eine der Teilnehmerinnen hatte sogar erzählt, dass sie das zum ersten Mal gemacht hatte, das hat mich wirklich beeindruckt.

Außerdem war es interessant, mal andere Deutsche aus Fukuoka und Umgebung kennenzulernen. Alles in allem war es ein sehr schönes Fest und ich bin sehr dankbar eingeladen worden zu sein. Zum Abschluss haben wir dann sogar noch ein kleines Geschenk bekommen, da war Weihnachten für mich komplett!

Vielen Dank für die Einladung!

C. D. フリードリヒとドイツの美術館

落合 桃子

大学の第二外国語でドイツ語を学んだことで、卒業論文のテーマにドイツの風景画家フリードリヒ（Caspar David Friedrich, 1774-1840）を選び、その後、日本とドイツの大学院で研究を行ってきました。2020年２月15日に開催された２月例会では、この画家の生涯とその後の再評価・受容について、ドイツ各地の美術館にあるフリードリヒの作品をご覧いただきながら、お話しいたしました。

フリードリヒの生涯

フリードリヒは北ドイツのグライフスヴァルトに1774年９月５日に生まれました。10人兄弟の６番目の子供で、父親のアドルフ・ゴットリープはろうそくと石鹸の製造業を営んでいました。グライフスヴァルトにはこの画家の生家や父親が営んでいた工場が残されており、現在はカスパー・ダヴィット・フリードリヒ・センターとして公開されています。

1794年、20歳の時、コペンハーゲンの美術アカデミーに入学します。フリードリヒと並びドイツ・ロマン主義の画家として知られるルンゲも同アカデミーで学んでいます。1798年にドイツへ帰国し、ドレスデンを拠点に画家として活動を始めます。初期の頃からセピアイカのイカ墨を用いたセピア技法で知られており、1805年にはゲーテとマイヤーによるヴァイマールの美術展で特賞を授与されています。

1807年頃から油彩画を描き始め、翌年のクリスマスに《山上の十字架（テッチェン祭壇画）》をアトリエで公開しました。伝統的な風景画から逸脱した平面的な構図や、風景画を祭壇画に用いたことなどが、保守派の美術批評家ラムドーアから批判され、いわゆる「ラムドーア論争」が展開されました。

代表作として知られる《海辺の修道士》《樫の森の中の修道院》は、1810年のベルリン美術アカデミー展に出品されたものです。当時15歳のプロイセン王太子フリードリヒ・ヴィルヘルムがこれを気に入ったため、プロイセン王国によって450ターラーで買い上げられました。これによりフリードリヒはベルリン美術アカデミー在外会員となり、活躍の場を広げました。

44歳になる1818年にカロリーネ・ボマーと結婚し、３人の子供に恵まれました。1824年にはドレスデン美術アカデミーで講座を持たない員外教授となりますが、正規の教授になることはありませんでした。フリードリヒの寓意的な風景画は次第に時代遅れとなっていき、1840年５月７日、65歳で世を去った後、画家は忘れられていきました。

フリードリヒの再評価と受容

フリードリヒが再評価されるようになるのは、ようやく19世紀の終わりになってからのことです。ノルウェーの美術史家オーベールが1895年に「風景画家フリードリヒ」という記事を雑誌『美術年代記』に発表します。オーベールはノルウェーの画家ダールを研究する中で、ドレスデンでダールと共に活動していたフリードリヒという画家を見出します。1906年にベルリン王立ナツィオナル・ガレリーで開催された『1775年から1875年までのドイツ美術展』（ドイツ100年展）には、これまで知られていなかった作品を含む36点のフリードリヒ作品が展示され、フリードリヒが再評価される転機となりま

した。この頃からベルリンのナツィオナル・ガレリー、ハンブルク美術館、ドレスデン絵画館など各地の美術館は競うようにフリードリヒ作品を収集し始めます。フリードリヒに関する論文や研究書が出版されるようになり、第一次世界大戦中には《古き英雄の墓碑》(1812年) などの兵士や戦争をテーマとした作品も注目されるようになりました。ナチス・ドイツの時代にはフリードリヒの風景画がナチズムと結び付けて解釈されたこともありました。

日本にフリードリヒが紹介されるのは、1930年代のことです。日独防共協定締結翌年の1937年（昭和12年）５月、『独逸国宝名作素描展』が現在の東京都美術館と京都市美術館で開催され、フリードリヒの素描《テープリッツなる城山を望む》が出品されました（今日、本作品は画家の真筆であることが疑問視されています)。1933年から35年までベルリンに留学していた日本画家の東山魁夷は「独逸浪漫派の二巨匠　カスパー・ダヴィット・フリードリッヒとオットー・ルンゲに就いて」という４頁にわたる記事を雑誌『美の国』(1937年７月号) に発表しています。

フリードリヒ研究は1970年代にピークを迎えます。ベルシュ・ズーパンとイェーニヒによる作品総目録が1973年に刊行されました。ドイツに先駆けてロンドンのテートギャラリーで1972年にフリードリヒ展が開催され、フリードリヒの生誕200年にあたる1974年にはハンブルク美術館で回顧展が行われました。日本でも1978年に『フリードリッヒとその周辺』展が東京国立近代美術館と京都国立博物館で開催され、この画家が日本で広く知られる契機となりました。1990年代にかけて、いくつかのドイツ・ロマン派の展覧会が行われており、1998年には熊本県立美術館で『ドイツ・ロマン派絵画展』が開催されています。

1990年に東西ドイツが統一されると、東西ベルリンに分かれていたフリードリヒ作品も一堂に集められることになります。旧西ベルリンのシャルロッテンブルク宮殿にあったロマン派ギャラリーの作品が移管され、2001年12月２日にリニューアルオープンしたアルテ・ナツィオナル・ガレリーの３階にフリードリヒの展示室が設けられました。この美術館にはドイツで最も多い17点の油彩画が所蔵されています。こうしてフリードリヒは統一ドイツを代表する画家の一人として位置づけられました。《海辺の修道士》《樫の森の中の修道院》が2013年から2016年にかけて修復され、くすみのない当時の色彩が蘇ったことも話題となりました。

「フリードリヒの展示室」
アルテ・ナツィオナル・ガレリー、ベルリン

（おちあい ももこ　会員、福岡大学人文学部講師）

2月例会感想　フリードリヒとドイツのクラシック音楽　雑感

加藤 元也

個人的に若い頃から密かなファンだったカスパール・ダヴィット・フリードリヒ。彼の絵の魅力をわかりやすく教えて頂けるチャンスがついに到来し、感無量！……と思いきや、西日本日独協会には、なんと多くの隠れフリードリヒファンがいたものか？ これが私の第一印象でした。

落合先生は、実は私（加藤）がインターネットで気になっていたことを調べていた折、たまたま見つけた論文の著者ということで、これが最初の出会いでした[1)]。それは、３年ほど前の夏休み、西日本日独協会60周年記念行事で、バイエルン独日協会から来日した青少年交流学生を太宰府にご案内するにあたり、ちょうど九州国立博物館で開催されていた東山魁夷展を見て頂いて日本画の世界を知ってもらいたいと思って企画した事がきっかけでした。

以前から私には「東山魁夷の絵はフリードリヒと似ている印象があるが、ドイツ留学中に影響されたのでは？」という疑問があり「ドイツ人なら若者でもきっとフリードリヒを理解しているだろうから、フリードリヒを通して東山魁夷の奥深い日本画の魅力を感じてもらえば、日独交流の一助にもなるだろう」と単純に思ったわけです。

検索しているうちにドイツ語で書かれた落合先生の論文が目にとまり、先生が福岡大学人文学部の講師をされていることがわかりました。ドイツ美術の専門家が日独協会にいたら、楽しい話題が増えるだろうと藤野事務局長にご相談し、福岡大の堺先生のお力添えもあって無事ご入会いただき、今回ようやく卓話まで漕ぎ着ける事が出来た次第です。

若い頃から私はドイツロマン派芸術に関心があり、フリードリヒとの出会いは40年以上昔の1978年に遡ります。友人に誘われるまま東京出張の帰りに見に行った国立西洋美術館で開催されていた「フリードリヒとその周辺展」を見たのが最初です。大きくもないくすんだ油彩画ばかりというのが最初の印象でしたが、後ろ向きの人物が遠く夕陽を眺めているような構図が多く、鑑賞者の視線と絵画中の人物の眺める方向が一致するところに、何か感性に強く訴えかけるものがありました。中でも印象に残ったのは《ドレスデンの大猟場》という晩年の作品でした。当時、趣味で油絵を描いていた私はこの絵を模写し、今でも我が家のリビングに飾ってあります。

岡嶋会長のご質問にもあった通り、クラシックレコードやＣＤのジャケットには、確かにフリードリヒの絵がたくさん使われていて、私もジャケットにひかれて衝動買いしてしまったこ

1) OCHIAI Momoko：*Die Rezeption von Caspar David Friedrich in Japan*. Universität Bremen, Waseda Universität, Tōkyō. (URL: https://www.jdzb.de/fileadmin/Redaktion/PDF/veroeffentlichungen/tagungsbaende/D60/22-p1285%20ochiai.pdf)

《ドレスデンの大猟場》
1832 年頃、73.5 × 102.5cm

ともありました。例えばＷ.サヴァリッシュ指揮ドレスデン国立歌劇場管弦楽団のシューマンの交響曲集や、ラドゥ・ルプーのブラームスピアノ小品集のジャケットに使われていました。ブラームス晩年の諦観に包まれた間奏曲を聴きながら《ドレスデンの大猟場》を眺めていると、今や彼の歳を超えてしまった私に何ともいえない安らぎをもたらしてくれます。

深い森の霧の中から次第にトレモロで姿を現すようなブルックナーの交響曲にも、フリードリヒ絵画と同質なものを感じます。かつて阿蘇大観峰に立って壮大な落日を眺めた時、神の天啓を暗示するようなブルックナーの荘重な旋律が浮かび、フリードリヒの夕景を眺めているような感覚を覚えたことを思いだします。

最盛期の《海辺の修道士》《樫の森の中の修道院》などは19世紀初頭のドイツとは思えぬ斬新な構図で、当時のヨーロッパ絵画の数十年先を行く作品ではなかったかと思います。余計なものを削ぎ落とした《海辺の修道士》は、長谷川等伯の《松林図屏風》あるいは晩年のモネを感じさせ、時代も空間も超越したインパクトがあると思います。

フリードリヒとベートーヴェンは、ほぼ同時代を生きた芸術家ですが、いずれもその作品が世に出た当初は、斬新すぎて社会に理解されなかったという共通点があるのではないでしょうか？ 19世紀以降の音楽史に革新をもたらしたベートーヴェン最後のピアノソナタ32番の第２楽章には、すでにジャズを想わせる部分があるという人もいます。

祭壇画《山の上の十字架》も心が洗われるような傑作ですが、卓話ではその革新的な構図をめぐり「ラムドーア論争」なるものがあったと伺いました。19世紀初頭という時代は、画家も音楽家も政治や宗教の支配から独り立ちし始めた過渡期でいろいろ葛藤があったのだと納得しました。人が美しい・心地よいと感じる感覚は本来、本能的・主観的なものなので、社会通念に影響されるべきではないと思いますが、現代の私たちの周りには情報が溢れすぎ、子供のように素朴に純粋に感動したくても、これらバイアスを排除するのは意外に難しく、自由なようで不自由な時代なのかもしれないという気がします。

（かとう もとや　会員、元麒麟麦酒）

JG-Youth Connect in Gunma　～群馬の思ひ出～　28 ページ参照

【８月例会】暑気払い：秋まで待てない！オクトーバーフェスト　27 ページ参照

会員だより

◆新入会員自己紹介

神代 正臣

北九州市立医療センター麻酔科医師です。日本とドイツは共に工業国であり敗戦国であること、国民が勤勉で規律正しいことなどから小学生の頃から興味と親しみを持っていました。趣味はクラシック音楽です。高校の数学の先生が用語の説明をドイツ語も使ってしていたこともあり、ドイツ語は憧れの言葉でした。ドイツの文化、歴史に触れたいと思い入会しました。宜しくお願いします。

（こうじろ まさおみ）

坂本 隼人

大学院修士課程にて独仏関係史を研究しております。ドイツ文化により深く触れるべく、入会させていただきました。日独協会がご提供されている様々な企画を通じ、少しでも「ドイツ」への理解を深められればと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

（さかもと はやと）

須藤 秀平

2019年４月より福岡大学人文学部に赴任しました、須藤秀平と申します。福大の先生方に勧められて入会しました。昭和62年生まれの若手（たぶん）教員です。以前は京都に住み、非常勤講師として京都、大阪、奈良の大学でドイツ語を教えていました。ドイツはハンブルクやハノーファーといった、商業的な伝統のある街が好きです。2013/14年にベルリンに留学していました。お酒とペンギンが好きです。よろしくお願い申し上げます。

（すとう しゅうへい）

瀧下 真由美

ドイツ語を始めたきっかけは、もう８～９年も前の事、息子がドイツに留学し、私がドイツに遊びに行くことにした少し前になります。

先ずは、「ドイツ語をしゃべって、息子を驚かせてやろう」と思った事です。

それと、彼の世話にならなくても一人であちこち行けるようにと思い、頑張りました。

結果は、ホテルではドイツ語を使ってみるものの、普段は英語が通じました。

悔しいので、そのまま２年続け、何回かドイツに行きましたが、結局息子が帰国した時までに独検３級程度、やめたらすっかり忘れてしまいそうで、忘れながら、今もって続けています。

趣味は、クラッシックの歌曲やオペラのアリアをうたうことです。

コーラスには入っていませんが、個人レッスンに通っています。

こちらも、カメの歩みですが、14年目になりました。みな様、よろしくお願いいたします。

（たきした まゆみ）

事務局報告

Ⅰ．2019年度会員動向

(1) 2019 年度入会個人会員 19 名（内 2 名法人指名会員）

(2) 2019 年度退会個人会員 17 名（内 3 名物故者）

(2) 2019 年度末在籍会員

名誉会員：6 名

法人会員：4 法人

個人会員：137 名（一般 89 名、家族 7 名、青年 25 名、学生 8 名、法人指名 8 名）

Ⅱ．2019年度活動報告

1．諸会議

(1) 2019 年度定期総会

2019 年度定期総会 2019 年 4 月 21 日（日）16：00 ～ 17：00、KKR 博多

出席 35 名、議案書通り可決

(2) 理事会

第 1 回理事会　2019 年 10 月 26 日（土）（西部ガス会議室 14）：出席 15 名

決議：未

今年度（2019 年度）のクリスマス会の開催形式について自由に意見を交換した。

第 2 回理事会 2020 年 2 月 15 日（西部ガス会議室 14）：出席 14 名

決議：2020 年度定期総会（本会）議案について

2．2019年度例会等の諸行事報告

【4 月例会】2019 年 4 月 21 日（日）理事会＋評議会＋総会＋卓話＋懇親会（KKR ホテル博多）

講師：アントン・シュヴァイツァー氏（九州大学教授、日本美術）

卓話：京都からドイツへ：元禄の押絵雛の再発見

（Von Kyoto nach Rastatt: Die Wiederentdeckung von Textilarbeiten aus der Ära Genroku）

出席 38 名　懇親会 33 名

【5 月例会】2019 年 5 月 25 日（土）（九州大学）

九州大学伊都キャンパスツアー

（イーストゾーン、展望室、西洋史研究室、独文研究室、中央図書館、椎木講堂）

出席 17 名　懇親会 15 名

【6 月例会】2019 年 6 月 29 日（土）（KKR ホテル博多）

講師：川口史氏（ＪＲ九州セコム株式会社代表取締役社長、非会員）

卓話：日本の鉄道・ドイツの鉄道―日蘭大陸横断レールクルーズ・ユーラシア大陸横断 14,000km 鉄道の旅

出席 45 名　懇親会 38 名

【7 月特別例会】2019 年 7 月 13 日（土）（福岡大学）

「第 4 回ドイツ語スピーチコンテスト 2019 年」（西日本日独協会後援）に合わせ来福されるケーラー大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事の講演

参加者多数

【8 月例会】2019 年 8 月 24 日（土）鉄板焼きレストラン eins「暑気払い：秋まで待てない！オクトーバーフェスト」

出席 27 名

【10 月例会】2019 年 10 月 26 日（土）（パピヨン 24）

講師：宮﨑亮（外科医・木村病院副院長）

卓話：「Hanse- und Universitätsstadt Rostock 600-800」（ハンザ＆大学都市ロストック 600-800）

出席 31 名　懇親会 24 名

【12 月例会】2019 年 12 月 19 日（木）例会「クリスマス会」（KKR ホテル博多）

企画：クリスマス実行委員会

出席 80 名

【2 月例会】2020 年 2 月 15 日（土）例会＋懇親会（パピヨン 24）

講師：落合桃子（福大講師、ドイツ美術）

題名：卓話「C. D. フリードリヒとドイツの美術館」C. D. Friedrich und die Museen in Deutschland

出席 30 名　懇親会 25 名

３．委員会活動

(1) 年報 43 号発行　2019.6.13.

(2) ドイツ語教室

春期：受講者 52 名　秋期：受講者 48 名

(3) 2019 年度ユース委員会活動報告

◆ JG-Youth Connect in Gunma ～ Camping 週末リラックス ぐんまで体験！ドイツ的休日

日時：2019 年 9 月 28 日（土）～ 29 日（日）

場所：群馬県吾妻郡高山村大字中山 6853 高山村みどりの村キャンプ場

対象：全国の日独協会青年会員及び日独ユースネットワーク（JG-Youth）役員、ドイツの文化等に関心のある非会員（ユース中心として年齢問わず！）

内容：JG-Youth 総会、ハロープログラムメンバーによるパネルディスカッション、交流ワークショップ、日独をテーマにした BBQ・懇親会、コンテンツ「ドイツマニアッククイズ (Deutsch Geek Quiz) in 群馬」開催、「伊香保温泉とドイツ人博士の歴史を訪ねる」探索会

参加者数：東京、群馬、大阪、香川、福岡、北海道、新潟の日独協会のメンバーが参加

日本人：25 名（お子さん 2 名含む）、ドイツ人 2 名：合計 27 名

◆ JG-Youth Connect in Kagoshima（番外編）

日時：2019 年 2 月 10 日（月）

場所：鹿児島県鹿児島市上荒田町 17-37 ベルギービールバー麦酒本舗

対象：群馬開催時と同じ

内容：鹿児島日独協会メンバー、鹿児島大学の安東清先生とゼミの学生さんとの懇親会。前後2日間で、「鹿児島で探すドイツ！」探索会（ハム・ソーセージ工房「ふくどめ小牧場」などドイツ関連の店舗、施設の訪問）開催。

参加者数：鹿児島、大阪、福岡の日独協会のメンバーが参加

日本人：12名、ドイツ人1名：合計13名

4．後援

(1) 2019.7.13. 第4回ドイツ語スピーチコンテスト九州

賞品として「クリスマス会招待券」5枚を提供

(2) 9.16. ～ 9.22. シュタイナー教育100周年 / 福岡シュタイナー学園10周年記念

場所：福岡市NPOボランティアセンターあすみん

5．協力

福岡日仏協会主催9月例会における卓話

日時：2019年9月3日（火）18:30 ～ 20:30

会場：アンスティテュ・フランセ九州5F

講師：岡嶋泰一郎氏

（西日本日独協会会長、医学博士、社会保険仲原病院院長、国立病院機構小倉医療センター名誉院長）

卓話：「医学、音楽、そしてドイツ」

日独協会からも参加者多数

Ⅲ．2019年度協会収支決算報告、留学生基金収支決算報告および会計監査報告
— 2019年4月1日～2020年3月31日 —

1．2019 年度協会会計収支決算

(1)【収入】(金額単位：円)

費　目	項　目	予算	決算	増　減 (決算－予算)
前年度繰越金		705,154	705,154	0
運営費	個人会員	660,000	615,000	-45,000
	法人会員	100,000	260,000	160,000
	年報広告費	110,000	150,000	40,000
	寄　付	0	0	0
	雑収入	846	12,704	11,858
	運営費計	870,846	1,037,704	166,858
活動費	例会等行事	1,100,000	883,000	-217,000
事業費 (ドイツ語教室)	今期前受金	777,000	777,000	0
	春期受講料	163,000	272,012	109,012
	秋期受講料	900,000	955,000	55,000
	次年度前受金	700,000	766,780	66,780
	事業費計	2,540,000	2,770,792	230,792
合　計		5,216,000	5,396,650	180,650

(2)【支出】

費　目	項　目	予算	決算	増　減 (決算－予算)
運営費	事務所家賃	240,000	240,000	0
	光熱・水道費	60,000	52,038	-7,962
	電話代	90,000	86,478	-3,522
	インターネット	5,000	13,296	8,296
	人件費	300,000	280,000	-20,000
	事務経費	40,000	22,376	-17,624
	通信・印刷費	70,000	52,277	-17,723
	会議費	0	0	0
	渉外費	30,000	27,696	-2,304
	旅費交通費	30,000	15,390	0
	ユース活動支援費	0	0	0
	年報発行費	200,000	192,240	-7,760
	雑費	10,000	3,212	-6,788
	予備費	10,000	0	-10,000
	運営費計	1,085,000	985,003	-99,997
活動費	例会等行事	1,100,000	902,805	-197,195
事業費 (ドイツ語教室)	春期教室経費	800,000	759,266	-40,734
	秋期教室経費	800,000	702,000	-98,000
	事業費計	1,600,000	1,461,266	-138,734
合　計		3,785,000	3,349,074	-435,926

【決算（総括)】(単位：円)

	収　入	支　出	差　額	
繰越金	705,154	0	705,154	
運営費	1,037,704	985,003	52,701	
活動費	883,000	902,805	-19,805	
事業費	2,770,792	1,461,266	1,309,526	
合　計	5,396,650	3,349,074	2,047,576	繰越金　1,280,796

注：この繰越金の中には、ドイツ語教室の次年度春期受講料前受金(766,780円)が含まれる。

(3) 2019 年度　留学生基金　収支 ― 2019 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日 ―

留学生基金収支

	収入	支出	残高
前年度繰越	253,200		253,200
2019年12/20例会　留学生招待7名		17,500	235,700
同日例会で募金	29,930		265,630
次年度繰越	283,130	17,500	265,630

2019年度西日本日独協会会計および留学生基金監査報告書

西日本日独協会
会長　岡嶋 泰一郎 殿

2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）の西日本日独協会会計および留学生基金について、諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係資料に基づき監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であることを報告します。

2020年4月10日
監事　北芝　幹怡　印
監事　福元　圭太　印

Ⅳ．2020年度活動計画

1．諸会議

(1) 総会　2020 年度定期総会　2020 年 4 月 5 日（日）～ 12 日（日）　メール会議

(2) 理事会　必要時に随時招集　協会事務所または例会会場にて

(3) 全国日独協会連合会総会　詳細未定

(4) 日独ユースネットワーク総会　詳細未定

2．例会等の行事

2020 年 4 月 12 日（日）総会（メール会議に移行）

卓話：中止

2020 年 6 月 13 日（土）「ドイツ語スピーチコンテスト」＋例会（福岡大学）

講演：佐藤慶治（鹿児島女子短期大学児童教育学科専任講師・バリトン歌手）

題名：翻訳唱歌と国民形成（仮題）

企画：企画委員会

2020 年 8 月 22 日（土）例会「暑気払い」（キリンビール福岡工場）

14:00-15:00　ビール工場見学（希望者のみ：他の協会のユース会員も誘う）

15:00-16:00　例会　講演

場所：工場併設のキリンビアファーム　貸切スペース　収容人員 36 名

講演者：キリンビール福岡工場副工場長 黒杭隆政氏

演題：未定（ドイツのビールとマイスター制度など）

16:00 ～ 18:30　ビアパーティ　講演後引き続き同じ部屋で、会費 4000 円（未確定）飲み放題

企画：企画委員会

2020 年 10 月 24 日（土）例会＋懇親会（KKR ホテル博多）

講演：須藤秀平（会員）

題名：フォルクとネーション（仮題）

企画：企画委員会

2020 年 12 月 17 日（木）例会「クリスマス会」（KKR ホテル博多）

企画：クリスマス実行委員会

2021 年 2 月 27 日（土）例会＋懇親会（パピヨン 24）

講演：石川謙介（九州医療センター精神科部長）

題名：ミュンヘン工科大学滞在記（仮題）

企画：企画委員会

（予告：2021 年度主要日程　総会：4 月 25 日（日）クリスマス会：12 月 16 日（木））

3．委員会活動および事務局

(1) 年報編集　年報第 44 号　発行 2020 年 6 月初旬　年報第 45 号　編集

個人広告の復活　⅓ 頁 3,000 円、½ 頁 5,000 円

(2) ドイツ語教室講師：児島裕哲、本田和親（協会事務所）、

シュトロートホフ・マーティン（天神ビルとカフェ・ル・ブルトン（予定））

2020 年度春期 2020 年 3 月 25 日～ 2020 年 7 月 22 日　2020 年度秋期月日未定

(3) 事務局局員の勤務：原則として金曜日 12 時～ 15 時とし、繁忙月（3、4、9 月等）は状況に応じ火曜日にも勤務する。事務局宛メールは同時に事務局員宅にも着信する。

4．共催・後援・支援

(1) 後援

2020 年 6 月（予定）第 5 回ドイツ語スピーチコンテスト九州　主催 : 在福 3 大学有志

(2) 共催　2021 年 2 月（予定）第 11 回福岡で楽しむ EU　主催 : 福岡 EU 協会

藤 産婦人科

Toh Maternity & Women's Clinic

◎診療時間　月･火･水･金／9：00～12：30　14：00～18：00
木･土／9：00～12：30
◎休診日　日･祝日

〒811-2417 篠栗町中央4－15－12
TEL 092-947-0358　FAX 092-947-1058

Ⅴ．2020年度協会会計収支予算
— 2020年4月1日～2021年3月31日 —

1.【収入】（金額単位：円）

費　目	項　目	前年度		2020年度	
		予　算	決　算	予　算	前年予算比
前年度繰越金		705,154	705,154	1,280,796	575,642
運営費	個人会員	660,000	615,000	660,000	0
	法人会員	100,000	260,000	100,000	0
	年報広告費	110,000	150,000	110,000	0
	寄　付	0	0	0	0
	雑収入	846	12,704	846	0
	運営費計	870,846	1,037,704	870,846	0
活動費	例会等行事	1,100,000	883,000	1,100,000	0
事業費（ドイツ語教室）	今期前受金	777,000	777,000	766,780	-10,220
	春期受講料	163,000	272,012	173,220	10,220
	秋期受講料	900,000	955,000	900,000	0
	次年度前受金	700,000	766,780	700,000	0
	事業費計	2,540,000	2,770,792	2,540,000	0
合　計		5,216,000	5,396,650	5,791,642	575,642

2.【支出】（金額単位：円）

費　目	項　目	前年度		2020年度	
		予　算	決　算	予　算	前年予算比
運営費	事務所家賃	240,000	240,000	240,000	0
	光熱・水道費	60,000	52,038	60,000	0
	電話代	90,000	86,478	90,000	0
	インターネット	5,000	13,296	5,000	0
	人件費	300,000	280,000	300,000	0
	事務経費	40,000	22,376	40,000	0
	通信・印刷費	70,000	52,277	70,000	0
	会議費	0	0	0	0
	渉外費	30,000	27,696	30,000	0
	旅費交通費	30,000	15,390	30,000	0
	ユース活動支援費	0	0	30,000	30,000
	年報発行費	200,000	192,240	200,000	0
	雑費	10,000	3,212	10,000	0
	予備費	10,000	0	100,000	90,000
	運営費計	1,085,000	985,003	1,205,000	120,000
活動費	例会等行事	1,100,000	902,805	1,100,000	0
事業費（ドイツ語教室）	春期教室経費	800,000	759,266	800,000	0
	秋期教室経費	800,000	702,000	800,000	0
	事業費計	1,600,000	1,461,266	1,600,000	0
合　計		3,785,000	3,349,074	3,905,000	120,000

【予算（総括）】（単位：円）

	収　入	支　出	差　額
繰越金	1,280,796	0	1,280,796
運営費	870,846	1,205,000	-334,154
活動費	1,100,000	1,100,000	0
事業費	2,540,000	1,600,000	940,000
合　計	5,791,642	3,905,000	1,886,642

繰越金　1,886,642

注：この繰越金の中には、ドイツ語教室の次年度春期受講料前受金（700,000円）が含まれる。

2020年度役員等名簿

（敬称略）

1．名誉職

名誉会長　田中優次　在福岡ドイツ連邦共和国名誉領事、西部ガス㈱相談役
顧　　問　池田紘一　九州大学名誉教授

2．役員

会　　長　岡嶋泰一郎　国立病院機構小倉医療センター名誉院長、社会保険仲原病院院長
副 会 長　小黒康正　九州大学大学院教授
高崎隆一　㈱西日本マネジメント開発代表
宮崎亮　木村病院副院長
事務局長　福元圭太　九州大学大学院教授
理　　事　荒木啓子、緒方愛実、加藤元也、ゴツィック・マーレン、堺雅志、佐田正之、田口武史、藤真理、中村直樹、舩津邦比古、ホルスト・スウェン、御手洗淳、村上康子、葉照子
監　　事　藤野成爾

3．委員会　（委員長○印、および委員）

企画委員会　○小黒康正、荒木啓子、岡嶋美佐子、小黒百合、加藤元也、松野正邦、村上康子、山崎勝幸、葉照子
年報編集委員会　○田口武史、冨重純子、藤真理、中村直樹、池田奈央
ドイツ語教室委員会　○堺雅志、児島裕哲、シュトロートホフ・マーティン、平松智久、本田和親
日独ユース委員会　○緒方愛実、ゴツィック・マーレン、田野武夫、平松智久、森光一郎

4．事務局

福元圭太（事務局長）、中村直樹（Web-master）、喜多村由布子（事務局員）

西日本日独協会会則

〈名称及び事務局〉

第１条　本会は、西日本日独協会と称する。

第２条　本会の事務局を福岡市に置く。

〈目　　的〉

第３条　本会は日独両国間の学術・経済・文化面の交流を助長し、あわせて両国民の親善を図ることを目的とする。

〈事　　業〉

第４条　本会の目的を達成するために、次の事業を行う。

１．例会の開催（ドイツあるいは日独交流の紹介、会員の親睦など）

２．ドイツ語教室の運営

３．両国学生交流の支援

４．年報の発行

５．目的に沿う催事の主催・共催・後援

〈会　　員〉

第５条　本会の会員は名誉会員、法人会員、個人会員、青年（40歳未満）会員、家族会員、学生会員とする。

１．名誉会員、法人会員は理事会の同意を得て会長が決定する。

２．個人会員、青年会員、家族会員、学生会員は会員の推薦により理事会で確認する。

３．法人会員に所属する者２名以下を個人会員（会費無料）登録することができる。

〈役員および顧問〉

第６条　本会に次の役員・名誉会長・顧問をおく。

１．会長１名、副会長３名以内、事務局長１名、理事若干名、監事２名

２．役員は理事会で推薦し、総会の承認を得る。任期は２年、再任可とする。

３．会長、副会長、事務局長は理事の互選とする。

４．理事会の推薦により、会長は名誉会長、顧問を委嘱することができる。

〈委　員　会〉

第７条　本会は下記の委員会ほか、必要に応じて委員会を設け、委員長を理事の中から選ぶ。

１．企画委員会、ドイツ語教室委員会、年報編集委員会、日独ユース委員会

２．委員長は、理事及び会員の中から委員を選ぶことができる。

〈会　　議〉

第８条　本会の会議は、総会、理事会とする。議事は出席者の過半数をもって決定する。

１．総会は年１回以上会長が招集する。総会に付議する事項は以下の通り。

①活動計画、報告　②予算、決算　③役員承認　④会則変更　⑤他重要事項

２．理事会は会長が必要に応じ招集し議長となる。付議事項は以下の通り。

①活動状況　②財務状況　③総会付議事項　④役員の推薦　⑤他重要事項

〈会　　計〉

第９条

１．本会の会計は、会費、事業（ドイツ語教室）などの収入をもって充てる。

２．年会費は法人会員１口20,000円以上任意、個人会員6,000円、青年会員4,000円、家族会員3,000円、学生会員1,000円とする。

３．会費を２年間滞納した場合は退会と見なす。

４．会計年度は毎年４月１日から翌年３月31日までとし、期末には監事の監査を受ける。

５．事務局スタッフを有給とすることができる。

〈付　　則〉

第10条

１．本会則上の疑義が生じた場合は、理事会で対応し、事後、総会で承認を得る。

２．この会則は2019年４月21日から発効する。

注：2018年４月20日以前に入会の青年会員には入会当時の会費規則を適用する。

会員名簿

（2019 年度末現在）敬称略

1．名誉会員：６名

大河内 Roswitha　Dr. Gross, Helmut　Haimer, Heyo E.　Hofmann, Klaus R.
Dr. Knof, Wolfgang　Dr. Stickel, Gerhard

2．法人会員：４法人

城島印刷（株）、西部ガス（株）、南州農場（株）、篠原公認会計士事務所グループ

3．個人会員：137名　○印は2019年度新入会員

明石英俊、麻生誠、荒木啓子、有吉千佳、井口アーデルハイト、池田紘一、池田園子、
○池田奈央、石村善治、井口哲也、板部忠佑、今井宏昌、梅野健、臼井和実、江口舞、
大久保里香、大澤遼可、岡嶋泰一郎、岡嶋美佐子、緒方愛実、○奥山若菜、小黒康正、
小黒百合、落合桃子、折登美紀、尾張充典
垣本知子、上加世田和文、萱野通子、加藤元也、加藤道子、
カスパリ・エルネスト＝ゲオルク、川上達也、カスパリ佳代、○川口史、北芝幹怡、
喜多村由布子、桑原康子、○剣持邦彦、○神代正臣、○古賀浩一、古賀淳子、古賀友子、
児島裕哲、ゴツィック・マーレン、小沼和夫、小林武治郎、小松和子
三枝保子、堺雅志、○坂本隼人、佐田正之、佐藤秀美、嶋田洋一郎、島松和正、
清水真弓、シュトロートホフ・マーティン、○シュヴァイツアー・アントン、白土浩司、
實原隆志、○篠原俊、○須藤秀平、瀬戸泰生
髙﨑隆一、髙田淑、高木康裕、高柳英子、多田裕子、立花雅子、楯岡和子、田野武夫、
高松美菜子、○瀧下真由美、武田利勝、竹下亜希子、田口武史、○谷口博文、
○種子田実希、○垂門剛、土井美弥子、土井章斗、土井和重、藤真理、冨重純子
中里公哉、長澤和賀子、永野秀子、○中須麻衣子、中村和子、中村直樹、○永元康夫、
南州マイスターヴェルク店長、二本木一哉
畠田美智代、橋本佳奈、橋爪晴美、廣田義幸、平野智香、平松智久、東原正明、
福嶋まみ、福元圭太、藤野成爾、舩津邦比古、二又美穂子、ホルスト・スウェン
ホルスト陽子、本田和親、増田博美、松野正邦、松本浩二朗、御手洗淳
御手洗史子、南優美、宮﨑亮、ミヒェル・ヴォルフガング、宮原郷士、宮原悦子
○宮村紀久子、村上康子、村上浩明、諸岡須賀子、森光一郎、森永誠之、安川洋
山崎勝幸、山本明子、山本成宏、葉照子、横川洋、横川寛、ライヒャルト・アンドレ
脇崇晴、分山邦子、○渡邊秀水、渡部正和、○渡邊裕一

2019年度中の物故会員：久保寛展、末永直行、二村英俊
久保寛展様、末永直行様、二村英俊様　謹んでご冥福をお祈りします。

編集後記

年報第44号をお届けいたします。今号より、田口武史が編集の責を担うこととなりましたが、新型コロナウィルスへの対応に追われ、半年近く発行が遅れてしまいました。やむをえない状況があったにせよ、会員の皆様、ご執筆くださった皆様には多大なるご心配、ご迷惑をおかけいたしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

2019年度に行われた協会行事について、９本のご報告およびご感想をいただきました。皆で講師のお話に耳を傾け、饗宴での語らいをとおして理解を深めてゆく――そうしたこれまでの活動がいかに豊かでかけがえのないものであったか、ご寄稿を拝読し改めて痛感する次第です。

とはいえ、この災禍が過ぎ去るまでは、しばし我慢。岡嶋会長のお言葉にございますとおり、我々の理性と品格が試されています。メルケル首相は、「これは歴史的な課題であり、心をひとつにしてこそ克服できる（Dies ist eine historische Aufgabe und sie ist nur gemeinsam zu bewältigen.）」のだと訴えかけました。名作の舞台や旧友を訪ねて再びドイツを旅すること、そしていつか、わいわいと「ドイツ会館・福岡」に集う日が来ること、そうしたことをそれぞれの場所で、しかし一緒に想像する力が、このニュー・アブノーマルな日々を過去のものとすることでしょう。

末筆ながら、広告をお寄せいただきました各社のご厚意に深謝申し上げます。

2019 年度　年報編集委員会委員長　田口武史
（委員　藤真理、冨重純子、中村直樹、池田奈央）

西日本日独協会年報　第44号（2020）

Jahresbericht 44 der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Westjapan 2020

発　行　令和２（2020）年12月４日
発行者　西日本日独協会会長　岡嶋泰一郎
編　集　西日本日独協会年報編集委員会
発行所　**西日本日独協会**
〒810-0012 福岡市中央区白金2-9-6 城島印刷株式会社 気付
Japanisch-Deutsche Gesellschaft Westjapan, Fukuoka
Präsident：Dr. Taiichiro Okajima
Büro　：c/o Kijima-Insatsu, 2-9-6 Shirogane Chuo-ku, Fukuoka 810-0012, Japan
Tel/Fax　：092－524－0059
E-mail　：info@jdg-nishinihon.org　URL：http://jdg-nishinihon.org
郵便振替　口座番号： 01720-3-23959　名義人：西日本日独協会
福岡銀行 屋形原支店 普通預金 口座番号： 1194549
名義人：西日本日独協会会長　岡嶋泰一郎
印　刷　城島印刷株式会社
〒810-0012　福岡市中央区白金2丁目9-6
Tel 092－531－7102㈹　Fax 092－524－4411